

第12回京北地域小中一貫教育校検討協議会摘録

- 日 時 平成30年11月20日(火) 19:30～21:05
- 場 所 京北合同庁舎 大会議室
- 出席者 検討協議会メンバー22名(2名欠席), 事務局及び関係職員等18名
- 傍聴者 なし
- 配布資料
 - 資料1 第11回(9月26日)の協議内容
 - 資料2-1 京北地域小中一貫教育校「校名案」専門家案
 - 資料2-2 [第11回検討協議会資料] 校名候補案選定一覧(検討用資料)
 - 資料3-1 施設整備に係る工事の進捗状況について
 - 資料3-2 土木工事の現場状況について
 - 資料3-3 新校舎平面図
 - 資料4 通学安全に係る登校シミュレーションについて

□議事要旨

1 開会

2 前回の協議内容の確認

前回の協議内容について、資料1に基づき、教育委員会から説明を行い、確認された。

3 校名案の選定について

校名案の選定について、資料2-1～2に基づき、教育委員会から説明を行った。

<説明>

- 前回の会議で絞り込んだ校名候補案22点を基に、一部活用や組合せ方の変更も含めて、専門家(京都市の国語科の指導主事等)に検討いただいた校名案が資料2-1である。
- 資料2-1は、あくまで専門家案として提案するものである。本日、資料2-1を基に、応募のあった校名も踏まえて、地元の校名案として相応しい校名となるよう検討いただきたい。

<質疑応答>

- (久保代表) 京北において、向こう100年以上続く小中一貫教育校である。専門家案以外の校名案も含め、素晴らしい校名となるよう検討したい。
- 「京都大原学院」や「東山開晴館」といった総称は、本件において、どのような扱いになるのか。
→ (教育委員会) 当該総称は、当時、義務教育学校の制度が創設されていないなか、小学校と中学校を合わせた小中一貫教育校の総称として、地元の意向を踏まえて付けられたものである(正式校名は、「大原小学校・大原中学校」、「開晴小学校・開晴中学校」)。学校教育法の改正により義務教育学校が制度化され、本市においては、今年度から、義務教育学校が設置されている。義務教育学校の校名は、一つの学校として「〇〇小中学校」となるため、本件において、あえて総称を付けていただく必要はないと考える。
- 専門家案の4点はいずれも難しい漢字が使われており、意味が分かりにくい。子どもにとつ

ては、簡易な校名の方が良いのではないか。

- 専門家案の4点はいずれも聞き覚えのある校名という印象である。日本一の学校を目指し、京北から世界に羽ばたく子どもたちの学校として相応しく、親しみのある校名とするべき。専門家案において親しみやすい校名案は「京都京北誉」だが、長すぎる。「京北」が一番良いと思うが、全国から見て、どこにある学校か分かりづらいため、語頭に「京都」を付けた「京都京北」にすればどうかと考える。
- (周山中学校長) 応募で圧倒的に多かった「京北」は外せないと思う。東京に京北中学校が存在するため、「京北」に「京都」を付けることが大事だと思う。「京北」というブランドに、「京都」という世界的なブランド名を組み合わせ「京都京北」とすることで相乗効果が見込め、どこにある学校かすぐに認識することができて良いと考える。
- 専門家案の中に、前回会議で絞り込んだ22点の中の校名案が選定されていないのが残念。22点の中に「きょうと京北」がある。「京都京北」が良いのではないか。「京都京北誉」は長すぎる。
- 「誉」は、京北に馴染のない言葉であり、「京都京北」が最適ではないかと考える。
- 参考に自分の子どもに聞くと「緑風」が良いと言っていたが、皆さんがおっしゃるように「京都京北」が一番分かりやすく良いと思う。
- 凝った校名も良いが、個人的には「京都京北」が良いと思う。子どもにとっては、難しい漢字の使用や長い校名ではなく、親しみやすい「京都京北」が良いのではないか。
- 専門家案4点はいずれも難しい漢字が使われている。低学年の子どもたちにとっても分かりやすく、親しみやすい「京都京北」が良いと思う。
- 「京都京北」は「京都」と「京北」のブランドの相乗効果が期待でき、シンプルで分かりやすく、良い校名である。
- 「京都市立京都京北」は「京都」が2回続くことになる。「京北翠明」、「京北清翠」の「翠」は好きな言葉だが、子どもにとっては、この2つの校名案は漢字も読み方も難しい。意味付けの内容に同感できる「京北啓明」が良いと考える。
- 京北は知名度が低く、隣の美山は「京都美山」として全国的に知名度が高い。シンプルかつ知名度を高める効果も期待して、「京都京北」が良いと考える。
- 専門家案4点は漢字だけではなく、意味付けを説明するにあたっての難しさもある。シンプルな校名にするべきであり、「京都京北」が良いと思う。
- 「京北啓明」、「京北翠明」、「京北清翠」はいずれも京北地域の特徴を表しており、良く似ている。「京北」だけでも、地域の素晴らしい面を表したものとなる。一般的に学校名には地名が使われていることから、地名は大事だと思っている。「京都京北」にするべきか、「京北」だけで良いのか悩んでいるところであるが、京北から世界に打って出る子どもたちの育成のことを考えると、「京都京北」とした方が良いのかなとも思う。
- 専門家案4点は、子どもたちにとって難しすぎる。シンプルな校名が良い。「京都市立京都京北」と京都が2回続くことから、「京北」あるいは「京北学園」が良いのではないかと考える。
- (京北第三小学校長) 先ほどから出ている「京都京北」に係る意見に賛成である。「京都京北」が良いと考える。
- (京北第二小学校長) 世界で活躍できる人材育成、未来志向の観点から、「京都京北誉」が良い

と思うが、長すぎることで、子どもたちにとって「誉」の理解が難しいことから、分かりやすい「京都京北」が良い。

- (京北第一小学校長) 今年度、3年生が錦市場を社会見学した際、児童が校名を聞かれ「一小」と答えた。新校において、児童が「京都京北」と答えることを想像すると、地域を大切に誇りに思う気持ちが表れていて良いなと考えているところである。
- 役職柄、全国各地で名刺交換する機会があるが、やはり知名度のある「京都」が大事だと実感している。「京都京北」とすることを強く要望する。
- 「京北」だけで良いと思っていたが、東京にも「京北中学校」があることを踏まえると、「京都京北」にするべきだと考える。
- シンプルに「京北小中学校」が良いと思っているが、皆さんの意見を踏まえ、「京都京北」とするのも良いかなと思っている。「京都京北ふるさと公社」の立ち上げに関わり、当時から今回と同じような意見を踏まえ、当初案の「京北ふるさと公社」の語頭に「京都」を付けた経過がある。
- 子どもたちにとって分かりやすい校名が一番である。「京北」という知名度が低いことを踏まえ、日本一を目指す学校に相応しい、日本一の京都にある京北の学校という観点から、「京都京北」とするべきである。

<確認・決定事項>

- 「京都京北」を地元校名案とする。
- 12月中旬頃に、本協議会から教育委員会へ「校名要望書」を提出する。当日の出席者は、京北自治振興会役員、6自治会会長、4小中学校PTA会長、4小中学校校長とし、後日、案内文書を配布する。

4 施設整備について

<報告>

施設整備の進捗状況について、資料3-1~3に基づき、教育委員会から報告を行った。また、新校舎の完成模型を室内に展示し、ご覧いただいた。

- テニスコートの敷地造成工事は、ほぼ作業が完了した。当該敷地は、今後、新校舎建築工事に係る現場事務所の設置や資材置場とするなど工事ヤードとして使用する予定である。
- 法面第1工区とロータリー造成工事は、切土・盛土による造成が進んでおり、引き続き、来年3月まで作業が続く予定である。
- 新校舎の各階平面図に関して、校舎正面の大階段横にエレベータを設置し、エレベータシャフトの壁面に校名サインを設置する。
- 1階の図書室は吹き抜けとし、2階は吹き抜け空間を囲むように廊下を配置し、校舎内での児童生徒の回遊性を持たせている。
- 普通教室は南面に配置し、太陽の陽が差し込む明るく開放的で木の温もりが感じられる環境としている。
- ランチルームは全校児童生徒が一堂に会することができ、給食のほか、学習発表会や学年単位の集会など様々な活動が可能。

- 体育館及びその付近に、避難所機能として、備蓄倉庫、多機能トイレ、ユニットシャワーを設置。自家発電設備を設置し、これらのエリアでは、停電時、一部の照明やコンセントの利用が可能。
- 1階「多目的室」は、現在、京北第一小学校の近くにおいて社会福祉法人が運営している児童クラブを移転して、使用する予定である。
- 2階の交流スペースやサブグラウンドに面したテラス等も、学級・学年間での様々な活動や児童生徒の交流の場となる。
- 現在、市会において新校舎建築工事契約議案について審議いただいております、承認いただければ、12月中旬頃に工事説明会を開催する予定。開催案内の周知範囲は、周山自治会と調整させていただきます。
- また、市会において新校舎建築工事契約議案が承認いただければ、来年1月上旬頃に起工式を開催する予定である。後日、改めて、案内させていただきます。

<質疑応答>

- 開校後、サブグラウンドが完成するまでの間、児童の遊具はどこかに設置するのか。
→ (教育委員会) サブグラウンドが完成するまでの間、メイングラウンド等に遊具を設置することを検討する。
- 図書室の上に音楽室が設置されているので、防音に配慮していただきたい。
→ (教育委員会) 図書室(メディアセンター)と音楽室は上下で一部重なる部分があるが、普通教室から離れた位置に設置するとともに、音響、遮音性能等について考慮した設計を行っている。
- 台風21号により、メイングラウンド西側ベンチの屋根が倒壊した。日よけ、落雷対策が必要。子どもたちの安全面に配慮した整備をお願いしたい。
→ (教育委員会) 仕様によっては屋根付きベンチが建築物に当たるかどうか確認が必要であり、対策方法について検討していきたい。
- メイングラウンド内に一部芝生が整備されているが、芝生を餌とする鹿が侵入し、芝生上は糞だらけ。芝生の張替えができないのであれば、撤去するなど何らかの対策を考えていただきたい。
→ (教育委員会) 国の補助金を基に整備しており、すぐに撤去することは困難。芝生の養生方法や、鹿のグラウンド北側からの進入防止対策等を検討する。
- メイングラウンド東側の残土を撤去し、アスファルト舗装の駐車場として整備してほしい。
→ (教育委員会) 本敷地において、雨水排水計画や舗装等の仕上げ内容について、京都府と協議しているが、雨水流出抑制の観点から、アスファルト舗装整備が制限されている。当該残土は撤去し、砕石舗装の駐車場とする計画である。

5 通学安全に係る登校シミュレーションについて

<報告>

10月19日(金)に実施した通学安全に係る登校シミュレーションについて、資料4に基づき、教育委員会から報告を行った。

- 前回のシミュレーションにおいて、京北第二小の路線バスが混雑したことから、スクールバス車両を普段の24人乗りから44人乗りに変更し、一部児童生徒の乗車バスを路線バスからスクールバスに変更した。
- 京北第二小の下地区について、保護者の方々と協議のうえ、一部地域の児童7名は徒歩で通学した。
- 全路線で子どもたちの乗り遅れや車内での混乱もなく、徒歩通学の児童も全員無事に登校した。また、京北第二小の車両バスの変更や、荷物の持ち方の指導等により、路線バスの混雑はかなり緩和され、概ね定時運行された。

<質疑応答>

- 下地区からの側道は、道幅が狭く、側溝には蓋がない。通学路の安全対策について、関係機関にしっかりと働きかけをお願いしたい。
- (教育委員会) 下地区児童の通学方法(徒歩又はバス通学)については、登校シミュレーションの結果を踏まえて、学校、保護者等で検討しているところである。通学路の安全対策が必要な箇所については、しっかりと関係機関へ働きかけていく。
- 下地区から側道沿いに徒歩通学する件に関して、悪天候のケースも想定してシミュレーションを実施する必要があるのではないか。
- (教育委員会) 次回は、寒さの厳しい1月に実施する予定。今後も、登校シミュレーションを通して、しっかりと通学方法の検証等を行ってまいりたい。

6 その他

<報告>

新校のPTA組織・規約等について検討する「4小中学校PTA会長会」の取組状況について、周山中学校校長から報告を行った。

- 11月8日(木)に第3回会議を開催し、新校のPTA規約や選挙細則について、原案がほぼ固まった。現在、各校PTA本部役員会に持ち帰り、意見集約している。事業計画や予算、通信投票の方法等について、慎重に検討している。
- 12月13日(木)に第4回会議を開催する。各校PTA本部役員会で集約した意見等を確認し、会長会としての案を固める予定。今年度の各校PTA総会において、承認をいただけるよう取組を進めていく。

7 次回の開催について

第13回検討協議会は来年3月頃に開催する。日程等が決まれば、案内文を配布する。